

## 陸域観測技術衛星ALOS(だいち)がとらえた「新潟県刈谷田川ダム周辺」(1)

データ提供：財団法人リモート・センシング技術センター

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

本誌90号から「陸域観測技術衛星ALOS (Advanced Land Observing Satellite) から見た国土の姿」を紹介してきましたが、この企画も本号で最終となります。下図は新潟県長岡市刈谷田川ダム周辺の画像です。ALOSに搭載されたパナクロマチック立体視センサ (PRISM: Panchromatic Remote sensing Instrument for Stereo Mapping) と高性能可視近赤外放射計2型 (AVNIR-2: Advanced Visible and Near Infrared Radiometer type 2) から観測された2種類の画像を合成したもので、Pan-sharpened image (前号でも紹介) といいます。市街地の分布や農用地の区画状況等の視認性が高いことがわかります。平成16年7月の新潟・福島豪雨の際に、刈谷田川ダムは洪水調整機能を発揮し、被害の軽減に寄与しました。この地域は今後も継続して地表面の時系列観測を実施していくことが求められており、災害(減災)対策の面においてもALOSは大きな役割を担っています。

Pan-sharpened image (True-color) using AVNIR-2 and PRISM data

Observation date : Oct. 19, 2006 Ground resolution : 2.5m/pixel



R : Band 3 G : Band 2 B : Band 1

© JAXA Distribution RESTEC